

視察報告

2018年9月21日から26日まで北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、貴州省遵義愷瑞学校、北京師範大学附属惠州実験学校を訪問し、交流活動を行った。参加大学院生は8名、教員は9名であった。

スケジュールは以下のとおりである。21日22時30分に羽田空港に集合し、香港に向け出発。香港には翌朝5時に到着し、フェリーにて珠海市九洲港に渡り、10時北京師範大学珠海校に到着し、お昼に歓迎会が行われ、午後13:00から新潟大学教職大学院生と北京師範大学大学院生との研究交流会を行った。翌23日は中山市にある孫文記念館を見学し、広州市へ移動した。24日にAとBの2団に分かれ、遵義市と惠州市に向かい、貴州省遵義愷瑞学校の訪問と北京師範大学惠州実験学校の訪問を行った。25日午前中各学校で交流活動と授業見学を行った後、午後広州市に戻り、北京師範大学附属南澳実験学校の見学と教員との交流を行った、26日帰国した。大変盛りだくさんの日程であった。

交流内容は以下のとおりである。まず22日新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。新潟大学側からは3名の教職大学院生が自分の研究課題を報告した。報告内容は教職大学院で行っている課題研究にもとづいてパワーポイントを準備し行われた。報告時間は30分である。北京師範大学側からは修士論文に向け研究している内容が報告された。新潟大学の報告は、教育実践の現場に即して行われたため、内容が理解しやすく、中国側から高い評価をえた。中国側の2学年の研究報告は日本側院生からも評価された。昨年度の交流活動より研究水準が高くなり、両学の院生報告がお互いに理解しやすくなった印象が強い。また研究テーマがいじめ・不登校などの学校教育が抱える問題を師範大学の院生も扱い、報告も日本語で行うなどの試みも取り上げられてきたので、交流会の雰囲気はとても和やかであった。北京師範大学の教員から指導を含めた多くの生産的な意見も出された。大変有意義な研究交流であった。

各学校の授業交流については3ないし2人の院生が2つのグループを作り、体育系の授業とグループ討議を中心とする授業を惠州実験学校と遵義愷瑞学校で展開した。子供たちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特に体を動かす活動を中心とした授業は子供たちの積極的な取り組みがなされていることに、見学した中国の先生方の関心を誘っていた。また授業を見学した院生たちから「日本の子供と何ら変わることはない子供の様子」を学習できたとの感想が聞かれた。授業終了後の検討会も多数の参加者をえて、参加者が持っている授業論や教育論、授業論など幅広い意見が出され、現職院生と教員同士の交流が深まった。

南澳実験学校の見学後、交流会が行われた。お互い意見交換をした教員同士の交流会であったため、子供や文化・教育に関する忌憚のない意見が出され、今後も続けていくことの重要性が語られ、国境を越えた豊かな教育交流がなされた。